

令和 2（2020）年度事業状況報告書

定款第 5 条第 1 項の（1）から（6）に掲げる令和 2（2020）年度の事業計画実施概要の報告は下記の通りです。

記

1 号事業報告：大会セミナー等事業

(1) JACET 第 59 回国際大会（京都、2020）の中止

令和 2（2020）年 9 月 8 日から 10 日まで、大会テーマを「英語教育における「ウェルビーイング」—学習者、教師、社会の可能性を拓く—」として同志社大学新町キャンパスで開催予定だったが、コロナウィルス蔓延に伴い中止となった。なお、国際大会の発表合格者のうち希望者は、12 月 5 日、6 日にオンライン開催された「第 3 回 JAAL in JACET（日本応用言語学会）学術交流集会（東京、2020）」で発表を振り替えた。振替件数は 64 件であった。

(2) JACET 創立 60 周年記念ウィーク特別委員会の開催

令和 3（2021）年 8 月 25 日（水）から 29 日（日）にオンライン上で開催する「JACET 創立 60 周年記念ウィーク」の準備のため、委員会としての全体会議を 6 回開催した。この記念ウィークは、前半 2 日間の「第 48 回 JACET サマーセミナー（オンライン、2021）」と後半 3 日間の「JACET 第 60 回記念国際大会（オンライン、2021）」から成る。

(3) JACET 第 3 回ジョイントセミナー（2020）の開催

令和 3（2021）年 3 月 8 日と 9 日に、第 47 回サマーセミナーと第 8 回英語教育セミナーを併せた JACET 第 3 回ジョイントセミナー（2020）をオンラインで開催した。“ELT materials development and use II: Linking theory and practice”（これからの英語教材の開発と活用 II—理論と実践の連携を求めて—）というテーマのもと、国内外から著名な講師を招き、当該分野における最新の研究成果を紹介した。サマーセミナー海外招待講師として John Gray（UCL Institute of Education, University College London）先生、同国内招待講師として Kip Cates（鳥取大学）先生、Ryan W Smithers（大谷大学）先生、英語教育セミナー講師として金丸 敏幸（京都大学）先生による講義がなされた。その他、参加者によるポスター発表と報告（10 件）、SIG 分科会（3 件：4 研究会）、情報交換会、ライトニングトーク賛助会員（7 件）があった。ポスター発表についてはファイルをウェブに掲載し、質疑を集約するようにした。参加者は 78 名（登録者 79 名）および賛助会員 8 団体（18 名）で、活発な意見交換や情報交換が行われ、2 日間の研修で当該テーマについての理解を深めた。3 年間にわたり同一テーマで開催したセミナーの成果は、専門書として刊行する予定である。

(4) 支部大会の開催

支部大会は、コロナウィルス感染症拡大防止の観点から中止した支部もあるが、オンラインで

開催した支部もあった。大会内容については、各支部ニューズレターで報告された。

- ・北海道支部大会 中止
- ・東北支部 令和 2 年 11 月 14 日（オンライン開催）
- ・関東支部大会 令和 2 年 8 月 29 日・30 日（オンライン開催）
- ・中部支部大会 令和 2 年 9 月 12 日（オンライン開催）
- ・関西支部大会 令和 2 年 11 月 14 日～30 日（オンライン開催：オンデマンド）
- ・中国・四国支部大会 令和 2 年 10 月 17 日（オンライン開催）
- ・九州・沖縄支部大会 令和 2 年 11 月 21 日（オンライン開催）

(5) 支部講演会の開催

以下の各支部において講演会がオンラインで開催された。

- ・関東支部講演会 令和 2 年 10 月 3 日、12 月 12 日（ともにオンライン開催）
- ・中部支部講演会 令和 2 年 10 月 17 日（オンライン開催）
- ・関西支部講演会 令和 2 年 10 月 17 日、令和 3 年 3 月 20 日（ともにオンライン開催）
- ・九州・沖縄支部講演会 令和 2 年 11 月 21 日（オンライン開催）

(6) 支部研究会等の開催

以下の各支部において研究会等が開催された。

- ・北海道支部研究会 令和 3 年 3 月 10 日・11 日（オンライン開催）
- ・東北支部例会 令和 2 年 11 月 14 日（オンライン開催）
- ・関東支部研究会 令和 2 年 6 月 13 日、11 月 14 日、3 月 13 日（オンライン開催）
- ・中部支部研究会 令和 2 年 12 月 5 日、令和 3 年 3 月 6 日（ともにオンライン開催）

2 号事業報告：出版物刊行事業

(1) 『紀要』の刊行

令和 3 年 3 月 16 日に『JACET Journal』65 号が刊行された。会員より応募された論文、リサーチ・ノート、及びブックレビューの 3 つの分野における論文を厳正に審査し、招待論文 2 本、会員からの一般論文 6 本が掲載された。会員及び英語教育関係機関（国立国会図書館、大学基準協会、コンピュータ利用協議会、全国語学教育協会、海外提携学会等）へ送付し、日本の英語教育研究の最新情報を発信した。

(2) 『Selected Papers』の発行

令和 2 年 9 月に『JACET International Convention Selected Papers』7 号が刊行された。JACET 第 58 回国際大会(名古屋、2019)で口頭発表（一般ポスター発表も含む）した発表者の学術研究を奨励し、論文発表の機会を与えるため、また海外の学会や英語教育関係者に日本の研究をリアルタイムで発信するため、電子ジャーナル（オンライン）として発行した。

(3) 『JACET 通信』の刊行

- ① 令和 2 年 8 月 1 日に『JACET 通信』208 号（日本語、ウェブサイト版）
- ② 令和 2 年 12 月 1 日に『JACET 通信』209 号（日本語、印刷版）
- ③ 令和 3 年 3 月 23 日に『JACET 通信』210 号（英語、ウェブサイト版）

通信を 3 回刊行し、大学英語教育関連の情報発信に寄与した。学会の最近の動向や優秀な大学英語教育を紹介することにより、会員の大学英語教員としての意識を向上させることができた。また、国内の他学会からの寄稿により、学際的な教育や研究の動向を知ることもできた。②では夏の国際大会の報告を行う予定であったが、コロナ禍のために実施できなかったため、令和 3 年度国際大会の予告や 60 周年を迎えるにあたり JACET の取り組むべき事柄を掲載した。

(4) 『JAAL in JACET Proceedings』の刊行

令和 3 年 3 月 31 日に『JAAL in JACET Proceedings』3 号が電子ジャーナルとして刊行された。「第 3 回 JAAL in JACET（日本応用言語学会）学術交流集会（東京、2020）」で口頭発表（ポスターも含む）した発表者の学術研究を奨励し、論文発表の機会を与えたものである。JAAL in JACET Proceedings への掲載は、学術交流集会発表者にとってより大きな業績となるだけでなく、研究者同士の情報交換や議論の場として更なる研究の活性化を促進した。また、海外に対し、日本の英語教育研究に関する最新事情を発信した。

(5) 支部紀要の発行

各支部で紀要を発行し、会員及び英語教育関係者等に送付（または公開）した。支部紀要は、支部会員の学術研究を奨励して論文発表の機会を与えるとともに、支部会員に研究・教育実践を学び合う機会を与え、支部全体を活性化した。

- ・『北海道支部紀要』17 号（冊子） 令和 3 年 3 月 15 日
- ・『TOHOKU TEFL』10 号（PDF） 令和 3 年 3 月 31 日
- ・『JACET 関東支部紀要』8 号（PDF） 令和 3 年 3 月 31 日
- ・『中部支部紀要』18 号（冊子） 令和 2 年 12 月 25 日
- ・『JACET Kansai Journal』23 号（冊子） 令和 3 年 3 月 31 日
- ・『大学英語教育学会中国・四国支部紀要』18 号（冊子） 令和 3 年 3 月 31 日
- ・『Annual Review of English Learning and Teaching』25 号（冊子）
令和 2 年 11 月 30 日

(6) 支部ニューズレターの発行

各支部でニューズレターを発行し、支部活動動向や、支部会員への英語教育に関する情報提供と情報交換を行った。

- ・『JACET 北海道支部ニューズレター』34 号 令和 3 年 3 月 31 日
- ・『JACET 東北支部通信』47 号 令和 3 年 3 月 31 日

- ・『JACET 関東支部ニューズレター』 15, 16 号 令和 2 年 10 月 31 日、令和 3 年 3 月 31 日
- ・『JACET Chubu Newsletter』 44, 45 号 令和 2 年 5 月 20 日、12 月 20 日
- ・『JACET Kansai Newsletter』 86, 87, 88 号 令和 2 年 7 月 17 日、8 月 31 日、11 月 7 日
- ・『大学英語教育学会中国・四国支部ニューズレター』 25, 26 号
令和 2 年 7 月 20 日、令和 3 年 1 月 10 日
- ・『九州・沖縄支部ニューズレター』 36 号 令和 2 年 4 月 2 日

3 号事業報告：表彰事業

(1) 大学英語教育学会賞の表彰

第 59 回（2020 年度）国際大会開催中に表彰式を予定していたが、コロナ禍の影響で大会を開催できなかったことから、表彰式は行わず、9 月 23 日に本学会ウェブサイトの結果を掲載し、受賞者に対して賞状と記念品を贈呈した。授賞者は以下のとおりである。

令和 2（2020）年度大学英語教育学会賞受賞者

・大学英語教育学会賞学術出版部門

受賞者：田地野彰（名古屋外国語大学）、寺内一（高千穂大学）、David Dalsky（京都大学）、細越響子（京都府立大学）、金丸敏幸（京都大学）、加藤由崇（中部大学）、マスワナ紗矢子（東京理科大学）、Daniel R. Pearce（京都ノートルダム女子大学）、笹尾洋介（京都大学）、Ryan W. Smithers（大谷大学）、Tim Stewart（京都大学）、高橋幸（国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)）

対象業績：A Systems Approach to Language Pedagogy（Singapore: Springer, 2019）

・大学英語教育学会賞論文部門

受賞者：濱田真由（神戸大学）、横川博一（神戸大学）

対象業績：論文“Effects of proficiency on syntactic priming in the language production of Japanese EFL learners”(JACET Journal No.63 (2019), pp. 47-64)

・大学英語教育学会賞新人論文発表部門

受賞者：福田晶子（立教大学大学院生）

対象業績：論文“Exploring Learner Beliefs in Self-Regulated Learning: A Case Investigation of an English Self-Study”(Selected Papers Vol.7 (2020), pp. 91-120)

・その他の部門に関しては、今年度は該当者がなかった。

4 号事業報告：協力事業

(1) 関係学術団体への派遣 I（海外提携学会）

① MELTA (Malaysian English Language Teaching Association)

令和 2 年度はコロナ禍のために実施されず、令和 3 年 7 月 23 日～25 日に延期となった。

② KATE (The Korea Association of Teachers of English)

令和2年7月2日から4日にオンライン・オフラインで開催された KATE 2020 International Conference に、本学会より学会代表者1名が参加した。発表のほか、提携学会関係者との意見交換を行った。

③ AILA (Association Internationale de Linguistique Appliquée) EBIC 派遣

令和2年8月8日にオランダ(オンライン)で開催された AILA (国際応用言語学会) の EBIC business meeting に、AILA 担当学術交流委員が本学会代表として参加した。

④ PKETA (Pan-Korea English Teachers Association)

令和2年10月24日に大韓民国(オンライン)で開催された PKETA 2020 International Conference に本学会役員1名が本学会代表として参加し、研究発表のほか、提携学会関係者との意見交換を行った。

⑤ ALAK (The Applied Linguistics Association of Korea)

令和2年度内に開催予定だった ALAK 2020 International Conference は、年度内に開催されなかった。

⑥ CELEA (Chinese English Language Education Association)

令和2年10月16日から18日に北京(オンライン)で開催された CELEA 9th International Conference に、本学会役員2名を派遣した。1名でなく2名派遣したのは、AILA East Asia が行われるためである。

⑦ ETA-ROC (English Teachers' Association of Republic of China)

令和2年11月14日から15日に台湾(オンライン)で開催された ETA-ROC 29th International Symposium and Book Fair on English Teaching に、本学会役員1名が本学会代表として参加し、研究発表のほか、提携学会関係者との意見交換を行った。

⑧ Thai TESOL (Thailand TESOL)

令和2年度内に開催予定だった Thailand TESOL 41st International Conference は、年度内に開催されなかった。

⑨ RELC (Regional Language Centre)

令和3年3月15日から17日にシンガポール共和国(オンライン)で開催された RELC 55th International Conference に本学会役員1名が本学会代表者として参加し、研究発表のほか、提携学会関係者との意見交換を行った。

(2) 関係学術団体への派遣Ⅱ (国内提携学会)

① JALT (The Japan Association for Language Teaching)

令和2年11月16日から23日にオンラインで開催された JALT 2020 ONLINE: Communities of Teachers and Learners (全国語学教育学会 第46回年次国際大会教材展示会) に、本学会役員1名が本学会代表者として参加し、研究発表のほか、提携学会関係者との意見交換を行った。

(3) 提携学会からの代表者受け入れ

① JACET 国際大会での Reception 開催

令和 2 年 9 月 8 日から 10 日に予定していた第 59 回（2020 年度）国際大会がコロナ禍の影響で開催されなかったことから、その期間内に開催予定だった JACET 国際大会での Reception 開催、提携学会学術交流会議、招聘発表やシンポジウムは、すべて中止となった。

5 号事業報告：調査研究事業

(1) 専門分野別の研究会活動

コロナ禍の影響で活動が制限されたものの、48 の研究会のうちほとんどが、それぞれの分野での調査研究を基盤として、会員の資質向上、書籍出版、教材開発、紀要等での論文発表などの活動を可能な限り行った。それにより、大学英語教育の発展に寄与し、会員相互の専門知識と技能の向上、会員の知見による学術の発展及び社会への還元を行った。また、各研究会の研究成果物を可能な限り公開できるように、そのための整理を行った。

(2) JAAL in JACET（日本応用言語学会）学術交流集会の開催

令和 2 年 12 月 5 日と 6 日にオンラインで「第 3 回 JAAL in JACET（日本応用言語学会）学術交流集会（東京、2020）」を開催した。新型コロナウイルス感染症拡大により第 59 回国際大会が中止となり、同大会の発表合格者のうち希望者には第 3 回 JAAL in JACET で発表の機会を与えた。また、同国際大会で展示をする機会を失った賛助会員には、発表の間にライトニングトークとして広報の機会を与えた。当初は 12 月 5 日（土）1 日の開催予定であったが 12 月 5 日・6 日と 2 日間の開催となった。JACET にとっては初めての大規模なオンライン学会となった本学術交流集会では、研究発表 87 件（第 59 回国際大会代替 61 件、JAAL in JACET 26 件）、研究会発表 13 件、賛助会員によるライトニングトーク 17 件、特別企画シンポジウム 2 件、「JACET 教員と賛助会員との連携に向けた第 6 回情報交換会」も開催され、盛りだくさんの内容となった。司会者、発表者を除いて、研究発表への参加（視聴）は約 90 名、特別企画シンポジウムへの参加は約 80 名であった。一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会（IIBC）に協賛をいただき IIBC を東京・統括本部とし 13 台のパソコンを並べてのモニタリング、札幌・ホスティング本部に 15 名のアルバイト学生を配置してバックアップ体制を整え、予定されていたプログラムはすべて無事に行われた。対面での学会開催が難しい状況が続く中、オンラインでも「研究者間、研究会間、産学連携、学会連携など横のつながりを創り出すような学術交流集会」として、参加者の大変活発な交流の場となった。本学術交流集会の公式ホームページを設置し、情報を発信すると共に、情報交換会の報告書『第 6 回 JAAL in JACET 学術交流集会 情報交換会まとめ』、『JACET 通信』、論文集『JAAL in JACET Proceedings, Volume 3』（査読付き）を通じて、その成果を公表した。論文集は本学会のウェブサイトに掲載し、研究成果を国内外に発信した。

(3) 全国都道府県英語教育研究テーマの調査研究

コロナ禍の影響で調査の実施が困難なため、最終年度であった2020年度の計画を1年延長し、2021年度に行うこととする。

(4) 将来構想委員会の開催

令和3年5月の理事会でJACETの将来的な組織の在り方について最終的な提言をするために、JACET 理事・監事の中の若干名で様々な議論を行った。令和2年5月16日、6月20日、8月31日（理事会と合同）、12月19日、令和3年3月13日に委員会を開催し、5年後、10年後のJACET という組織の在り方について、JACET の本部・支部の組織を含めて抜本的な改編の議論を行った。

6号事業報告：その他 法人事業

(1) 理事会の開催

令和2年5月17日、6月21日、8月29日、12月20日、令和3年3月21日に理事会をオンラインで開催し、その他、理事会メール審議を行った。

(2) 定時社員総会の開催

令和2年6月21日に令和2年度定時社員総会をオンラインで開催した。令和元年度事業報告・収支決算・監事監査報告、令和2年度会員異動、定款変更等の承認等を行った。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、国際大会の中止ならびに支部の活動の中止・自粛で事業計画に大幅な変更があったことについて、補足説明をした。財務担当理事からは事業計画に基づいた収支予算ならびに事業計画変更後の修正予算について説明を行った。

(3) その他の委員会の開催

定例の各運営委員会、運営会議、顧問会議、支部委員会、支部役員会を適宜行った。

(4) 会員総会の開催

例年は国際大会開催期間中に会員総会を行ってきたが、コロナ禍で大会が中止となったことから、令和2年度第2回理事会および総務財務会議で検討した結果、今年度はメーリングリスト、ウェブサイト、フォーム入力を利用した会員総会を行った。ウェブサイトに昨年度の事業報告・財務諸表、今年度の事業計画・予算書、定款や諸規程の資料を掲載し、メーリングリストでリンク先を共有し、8月11日から15日までをフォームでの質問受付期間とした。質問はなかったが、会員にJACETの活動状況を周知することができた。

(5) 社員選挙の実施

令和2年10月から令和3年1月にかけて、2021～2022年度大学英語教育学会社員の選挙を行った。『社員選挙規程』に則り立候補および他薦を応募し、候補者を選出し、候補者公示の後

に異議申し立て期間を設置し、社員 77 名と補欠 14 名が決定した。

(6) 支部総会の開催

コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、中止、あるいはオンラインでの開催となった。

- ・北海道支部総会 令和 2 年 11 月 7 日 (オンライン)
- ・東北支部総会 令和 2 年 11 月 14 日 (オンライン)
- ・関東支部総会 令和 2 年 8 月 29 日、11 月 21 日 (ともにオンライン)
- ・中部支部総会 令和 2 年 9 月 12 日、12 月 5 日 (ともにオンライン)
- ・関西支部総会 令和 2 年 11 月 21 日 (オンライン)
- ・中国・四国支部総会 中止
- ・九州・沖縄支部総会 令和 2 年 11 月 21 日 (オンライン)

以上